

多摩支部会報

関東大学ラグビー対抗戦連覇等特集号

令和2年12月20日発行

明治大学校友会

東京都多摩支部

支部長 當麻 功

広報委 飯田光宏



22年ぶり対抗戦連覇

伝統の一戦を制した。対抗戦最終節の相手はここまで6戦6勝と無傷で首位をひた走る早大。前半からスピード感のある攻撃でトライを連取。慶大、帝京大と課題だった試合の入りも克服し、終始試合のテーマでもある「Meiji Style」を貫き34-14と快勝。昨年の大学選手権決勝での雪辱を晴らし、22年ぶりとなる対抗戦連覇を成し遂げた。

(明スポ転載)



明スポ

選手インタビュー
ナンバーエイト箸本龍雅主将(商4=東福岡)
2年連続で明早戦のマン・オブ・ザ・マッチに選

ばれていかがですか。

普通にめちゃくちゃ嬉しいです。前半の先制トライや2本目のトライの起点にもなれたので、よかったと思います」

主将として今後どう引っ張っていきますか。

ここからの取り組み次第で順位も変わりますし、対抗戦優勝じゃ全然満足できないです。常に自分たちの課題、自分たちの評価というのを過信することなく、自分たちをどれだけ見つめられるかが大事になってくると思います。なので、しっかりできていないことはできてない、できるところはできているという部分を自分やリーダー中心に話していこうと思います」

(写真・記事とも明スポ転載)

本号写真・記事

明スポ表示以外は全て国立地域支部の越智浩治氏の提供です

対早稲田戦応援観戦記

国立地域支部 越智浩治

早稲田が6戦全勝、明治が5勝1敗で迎えた96回を数える伝統の早明戦が、12月6日（日）、快晴に恵まれた秩父宮ラグビー場で行われました。

明早戦は、昨年までは校友会を通じてチケットを購入することができましたが今シーズンは新型コロナの影響で、発売枚数が定員のほぼ半数ということもあって、チケットは発売から30分も経たない内に完売。しかし運よく購入することができ、ライブで観戦することができました。

前評判では全勝の早稲田が有利と言われており、明治も大黒柱の山沢選手が負傷で出場できないということもあって、明治が勝つとすればロースコアの接戦と思っていましたが「明早戦の前評判は当てにならない」というジンクス通りの試合結果となりました。

試合開始早々、前半15分に箸本キャプテンが先制トライを取ってから1トライを返されたものの前半を21対7で終わりました。後半も流れを渡すことなく、試合終了間際に1トライを追加し、終わってみれば34対14（後半13対7）で早稲田に快勝し、22年ぶりの対抗戦連覇を果たしました。

試合を通じて感じたのはスクラム、ライ



ンアウトのセットプレーが非常に安定していたこと、ブレイクダウンの密集戦でも早稲田を圧倒できたことが挙げられます。「明治スタイルにフォーカスした前へ」の



ラグビーが迷いなくできていました。

一方、早稲田は明治のプレッシャーからか、ラインアウトでノットストレートなどの早稲田らしからぬミスを犯していました。



これから大学選手権を迎えますが、早稲田も修正力の高いチームなので、きっと今日とは違ったチームとなっているでしょう。

一方、明治は箸本キャプテンが「対抗戦の優勝は、試合メンバーの23人だけでなく、一緒に練習してきたBチーム、Cチーム、Dチームのみんなの成果だと思っています」と話しているように固い結束で、さらにチーム力のアップが期待されます。

大学選手権の決勝で再戦すれば、きっと昨季の雪辱を果たしてくれることでしょう。



全国大学ラグビー
選手権

日大を撃破



ラグビー部ツイッター



明スポー松本かほり

決勝

スクラムで優位に立った。前半5分、スクラムハーフ飯沼蓮（営3＝日川）を起点に右に展開し最後は左センター廣瀬雄也（商1＝東福岡）のオフロードパスを受けた右センター児玉樹（政経3＝秋田工）がフィニッシュ。「廣瀬が狙い通りに動いてくれた」（児玉）。幸先よく先制する。その後は苦しい時間が続くも「ディフェンスは我慢できた」（ナンバーエイト箸本龍雅主将・商4＝東福岡）。前半を無失点に抑え12-0で折り返す。後半に入っても自陣でのプレーが続き日大に一時、5点差まで縮められる。「敵陣でラグビーをしよう」（箸本）。後半20分、敵陣ゴール前での相手ボールのスクラムで明大が優位に立つと、こぼれたボールをそのまま左フランカー福田陸人（法3＝国学院栃木）がグラウンディング。「FWが頑張ってくれた」（フルバック雲山弘貴・政経3＝報徳学園）。最後は攻撃の手を緩めず、敵陣でプレーを続け、最終スコアは34-7。点差以上に拮抗したゲーム内容ではあったが、見事勝利を収め、年越しを決めた。

日大の強いアタックをしのぎ切った。「苦しい中でも大きくディフェンスが崩れなかった」（児玉）。外国人選手を筆頭にフィジカルが武器の日大を封じ込める。一方、攻撃ではラインアウトに少しミスが見られたもののスクラムでは圧倒。「後半入ったメンバーがいいスクラムを組んでくれた」（箸本）。明大の層の厚さを示した。

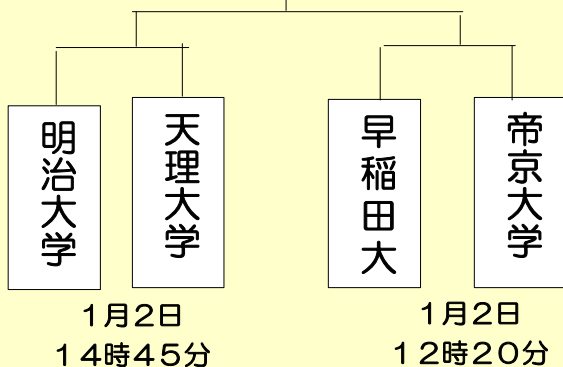
準決勝の相手は関西王者・天理大。準々決勝の流経大戦で78得点を挙げるなど日大と同様、攻撃力の高いチームだ。「相手の強みであるフィジカルの部分で負けないようにしていきたい」（左ロック片倉康瑛・法4＝明大中野）。大学王者へあと2勝。箸本組の挑戦はまだ続いていく。

※大阪・花園ラグビー場では、対抗戦4位の帝京大が関東リーグ戦1位の東海大を14-8、関西Aリーグ1位の天理大が関東リーグ戦2位の流経大を78-17と大差で下し、それぞれ準決勝に駒を進めた。

[牛嶋淳太郎] (明スポ転載)

決勝戦

1月11日
13時15分



コロナ禍で迎えた第57回全国大学ラグビー選手権もいよいよ大詰め、正月決戦舞台の役者が揃いました。

母校明治大学は14回目の全国制覇をかけて臨みます。

昨年は、対抗戦で圧倒した早稲田大学に全国一の座を奪われました。今年の組み合わせ、どうなるか分かりませんが”大学王者”の座を奪還してくれることを信じて、応援しよう。（多摩支部広報委員会）

関東大学サッカーリーグ連覇達成

最終節 桐蔭横浜大学と3-3で引き分けるも



開幕6連勝と好スタートを切ったが、首位を他大学に譲る期間もあった。それでも今月6日から中2、3日でこなしたラスト5連戦は3勝2分け。直近2試合は10得点と攻撃陣も爆発し、年間を通じて誰が出ても勝ち点を取る粘り強さを見せた。副将の小柏も「しっかり僕たちのサッカーをして勝てたことが優勝につながった」と今季を総括。「歴史に名を刻むって意味ではすごくうれしい」と目標にしてきた連覇達成を喜んだ。(記述 スポーツ報知 栗田記者)

順位	チーム名	勝点	試合数	総得点	総失点	得失点差
1	明治大学	48	22	47	20	27
2	早稲田大学	44	22	48	21	27
3	順天堂大学	38	22	38	34	4
4	桐蔭横浜大学	37	22	39	31	8
5	法政大学	30	18	32	24	8

6位以下省略

編集後書 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、ラグビー部もサッカー部も良くやってくれました。冬晴れの続く歳末、巣ごもり状態から一步も出られない基礎疾患持ちの筆者は好意ある校友の寄稿とパソコンを頼りに本号を作成しました。切り張り記事ばかりで申し訳ありません。シード権を獲得している競争部の「箱根駅伝」も楽しみです。毎年駆けつけている藤沢での駅伝も、応援自粛ということでひたすらテレビのかぶりつき応援をしましょう。各部の躍動を期待しましょう。(広報委員会)